

都道府県別賞一等

生命保険は私たちの身近にも

三重県 四日市市立西笹川中学校 三学年

藤塚 明音

「生命保険」と聞くと、みなさんはどんなイメージを思い浮かべるだろうか。私には身近なものではなかったのですが、詳しい仕組みを理解していなかった。そのため、なんとなく重い病気のとときや人が亡くなったときに、はじめて使うことのできるものという、ざっくりとしたイメージで、今の私には何の関係もないものだと思っていた。

しかし、今年に入ってから、私の祖母が脳出血で倒れた。幸い祖母と私たちは同じ家に暮らしていたため、すぐに救急車を呼ぶことができ、祖母は入院することになった。今では退院して、歩行器で歩けるまでに回復した。

祖母が倒れたのは休日の朝のことだったため、私も祖母が救急車に運ばれていくところを見ていた。

そのときの祖母はうまく声を発したり体を動かしたりすることができなかつたらしいが、そのときの私は今にも祖母が死んでしまうのではないかと不安で仕方がなかった。前日までは普通に私と話をしていた元気だったので、そのことも私を不安にさせる要因だった。前記した通り、私の祖母は全回復とまではいかないが、今ではしゃべることができるほど回復してきている。

そのとき、祖母が倒れてからお金の面で父の不安を減らしていたのが、公的介護保険や祖母の入っていた生命保険だった。

父は祖母の保険の手続きをしていたので、父に保険について、助かったことと大変だったことを聞いた。

特に助かったことは、祖母は要介護二という介護認定を入院中に受けたことで、車いすのレンタル費、手すりの工事費などが一割の自己負担で済んだことだそうだった。工事費や月々の車いすレンタル代は普通ではかなりかかるらしいが、一割の自己負担ということで安心したそうだった。

しかし、大変だったこともあったそうだった。それは、祖母が何の保険に入っているかわからなかったため、何に入っているかを確認するところから始まり、手続きに手間取ってしまったことだ。しかし、保険のおかげで「お金が下りてくる」という安心感があったそうだった。

私は、今回のことで保険に対する考えが変わった。それは、自分が病気になつていないからと言って、保険とは無関係というわけではなく、家族のためにも保険について知ることが大切だということ。そして、保険は主に自分のために

第61回中学生作文コンクール

かけるものだと思っていたが、少しでも家族に迷惑をかけないために入っておくものだという事。

だからこそ、自分の保険のことは事前に家族に伝えておかなければならないし、私たちも家族の保険について知ろうとしなければならぬ。保険は家族と一緒に管理していかないと知った。

何より、今の自分が入っている保険は、母が入れてくれた保険なので、まずは自分が何の保険に入っているのかを知っていききたい。また、私が大きくなったら、自分のためにも家族のためにも生命保険に入って少しでも安心できるようにしたい。